

◎ アジアとアフリカに分布

センザンコウ(穿山甲・鱗鯉)は体にうろこがあるのが特徴の哺乳類で、長い舌でアリやシロアリを食べます。木に登り、地面に巣穴を掘ることが知られています。アリやシロアリを探すために長い爪で土をかき混ぜることが、種子が発芽するのに役立っていると言われます。夜行性なので生態はあまり明らかになっていません^(*)。

アジアに4種、アフリカに4種が分布し、そのすべてがIUCNレッドリストの絶滅危惧種で、生息数が減少しています。

なかでも中国に分布するミミセンザンコウ(Manis pentadactyla)と東南アジアに分布するマレーセンザンコウ(Manis javanica)は深刻な危機(CR)にあります。

IUCN種の保存委員会センザンコウ専門家グループは「センザンコウは現在、世界で最も違法取引が盛んに行われている哺乳類で、この10年で捕獲された野生のセンザンコウの数は100万を越えている」と警告しています^(*)。

◎ 絶滅の脅威

センザンコウの肉は食用、とくに高級中華料理の材料とされ、うろこは伝統薬に、皮は靴や鞆などに加工されます。センザンコウのうろこやサイの角は伝統薬として珍重されますが、その成分は人間の髪の毛や指の爪と同じケラチンです^(*)。

高級品のセンザンコウの需要増加の背景には、アジアの経済発展があります。

センザンコウの生息数はほとんど知られていませんが、中国のセンザンコウは生息数の減少で商品として出回らなくなっています。1990年代半ばから、中国の消費者は東南アジアだけでなく南アジア、そして現在はアフリカへと取引を拡大してきました。そしてこれまで自給自足のために狩猟をしてきた地域が、センザンコウを都市へ販売し、それが輸出されるようになって金銭価値が生じたため大量に狩猟がおこなわれるようになりました。

さらにマレーセンザンコウの場合は森林伐採とゴム農園やパームヤシ農園の

拡大による生息地の喪失による脅威があり、サバンナセンザンコウ(Smutsia temminckii)の場合は南アフリカで土地の管理に使われる電気柵が脅威になっています^(*)。

◎ 法規制

センザンコウは2000年にワシントン条約CoP11で附属書IIに掲載されました。そしてアジアの野生のセンザンコウの輸出割り当てはゼロに決まったため、結果的に取引は禁止されています。それにもかかわらず今なお中国やベトナムでは食肉や伝統薬として高い需要があります。

またアフリカのセンザンコウの輸出割り当てはゼロではありませんが、密輸(輸出許可なしの輸出入)が横行しています。アフリカでもセンザンコウは食用に狩猟されて、うろこは伝統薬や儀式に使われています。しかし近年問題なのは、うろこがアジアに密輸されていることです。2010年以降アフリカのセンザンコウの違法取引の押収が増加しており、密輸シンジケートにとってセンザンコウは、象牙やサイの角とともにアフリカからアジアへの密輸品として価値が高まっているとみられています^(*)。

◎ 日本での売買

日本ではセンザンコウの消費を見聞きすることがありませんが、皮を使った財布や剥製がインターネットのオークションサイトで販売されています。センザンコウはワシントン条約の附属書IIなので、輸入時に許可証が必要ですが、国内取引は規制されません。アジアのセンザンコウの輸入割当量がゼロになっても、種の保存法に基づいて国内取引が規制される附属書Iの種と附属書IIの種との法規制の差は大きいです。

また、海外旅行先でセンザンコウ料理を食べることも、センザンコウの絶滅に加担することになります。

◎ センザンコウを守るキャンペーン

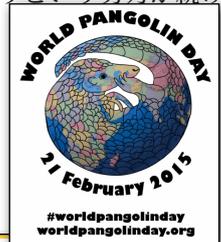
このようなセンザンコウの危機に対し、センザンコウへの関心を高めて保護活動への支援を呼びかける、さまざまな

キャンペーンが行われています。

例えば英国の二人の王子やスポーツ選手が大使となっている「United for Wildlife」は若い人に向けて野生生物保全を普及啓発しています。この団体はオンラインゲームの「アングリーバード」と提携し、2014年11月に期間限定の特別編として、センザンコウを助け出す「Roll with the pangolins」^(*)というゲームを公開しました。このゲームには10,295,884件の参加があったそうです。

また2月の第3土曜日は「世界センザンコウの日」になっており、今年は21日が第4回目の記念日として、キャンペーンが行われました。キャンペーンでは「あなたがセンザンコウのためにできること」としてTwitterやFacebookでの情報の共有や、自然保護団体への寄付、法規制の強化やレストランのメニューから外すよう働きかけるといったことのほかに、センザンコウのアートを作成、センザンコウの形のクッキーやケーキを焼く、パーティを開くなどが挙げられていました^(*)。

多くの人に知られないまま、絶滅のおそれに瀕している生物たちの存在に気づき、その保護のために人間のくらしと社会を変えていこうという努力が続けられています。



(写真・上) 2015年世界センザンコウの日のロゴマーク (下) IUCNセンザンコウ専門家グループによる保全戦略

【参考】

- *1 United for Wildlifeのセンザンコウキャンペーン <http://www.unitedforwildlife.org/#!/2014/11/25-shareable-pangolin-facts>
- *2 IUCN 種の保存委員会 センザンコウ専門家グループ <http://www.pangolinsg.org/>
- *3 センザンコウ専門家グループによる保全戦略 http://www.pangolinsg.org/files/2012/07/Scaling_up_pangolin_conservation_280714_v4.pdf
- *4 IUCN Redlist サバンナセンザンコウ <http://www.iucnredlist.org/details/12765/0>
- *5 オンラインゲーム Roll with the pangolins <http://www.angrybirdsnest.com/angry-birds-friends-pangolins-tournament-on-now/>
- *6 世界センザンコウの日 <http://worldpangolinday.org/>

JWCS 認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO法人格取得: 2001年 認定取得: 2014年

名誉会長: 小原秀雄(女子栄養大学名誉教授) 会長: 安藤元一(東京農業大学教授) 副会長: 小川潔(東京学芸大学名誉教授) 森川純(酪農大特任教授)

事務局長: 鈴木希理恵 理事: 池本桂子(NPO法人シーズ) 永石文明(㈱エコロジーパス) 並木美砂子(帝京科学大学教授) 西原智昭(WCSコンゴ)

古沢広祐(国学院大学教授) 山極壽一(京都大学教授) 監事: 磯田厚子(女子栄養大学教授) 顧問: 岩田好宏(元・中学校教諭)

〒180-0022

東京都武蔵野市境1-11-19 モウト APT102

Tel & Fax: 0422-54-4885

E-mail: info@jwcs.org <http://www.jwcs.org>

[会費・寄付のご送金先]
郵便振替 00160-9-715145
加入者名 野生生物保全論研究会
正会員年間 5000円

表紙: ワオキツネザル

JWCS通信 2014年通巻74号

2015年3月発行

発行人 = 安藤元一

編集 = 鈴木希理恵

デザイン: 土肥優子

